

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200218
法人名	株式会社 ケアサポート霧島
事業所名	グループホームきりつま
所在地	鹿児島県霧島市霧島大窪63-2番地 (電話) 0995-64-8095
自己評価作成日	R3年10月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 3年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームきりつまは、霧島山麓の豊かな自然環境の中、美味しい空気を身体いっぱいに取り入れ、気持ちよく過ごせる場所にあり、周りの景色は四季折々の花々が咲き誇り、近くの神社には、散歩がてらお参りをしたり、足湯のサービスを利用したり、「コロナ禍でも楽しみを・・・」と家庭菜園に勤しみ、もぎたての野菜が味わえる喜びとなり、家庭的な雰囲気の中で本人様のペースに合わせた生活をモットーに認知症を患っても、その人らしい生活ができるように支援しています。職員は、常に寄り添う事を大切にし、(感謝の心・謙虚の心・共感の心) 3kのこころを持って五感を使って良く観察し、報告・連絡・相談を心掛け、早期発見・対応に努めている。生活のパートナーとして、利用者様、御家族に接し、一日一日を張りのある充実した生活が送れるように努めている。常に一人一人のニーズに合わせた個別の関わりを重視し、人生の大先輩としての敬いの心を持って接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは霧島市中心地から車で15分ほどの霧島山麓の霧島大窪地区に平成20年に開設されている。閑静で自然豊かな環境の一角に平屋1棟に1ユニットずつの設置で余裕あるスペースが確保され、全居室には出入りできるウッドデッキも設けてある。広い園庭には桜やきんかん、葡萄、柿など多種の木や草花が植えられ、東屋やベンチ等も設けられて、利用者は四季を感じながら平穏な日々を過ごしている。

開設以来、地域との交流を大切に取組んできており、保育所や商店、消防署、一般住民との良好な関係を構築している。現在はコロナ禍により、地域のイベントの殆んどが中止され、敬老会などホームの行事への住民参加も控えてもらっているが、通院や近くの神社、周辺の散歩時には地域の人と挨拶を交わし、日常的に農産物等を頂くなどの関係は続いており、利用者はこれらの交流を楽しんでいる。また、住民から寄せられる相談等には専門性を生かして丁寧に助言するなどの交流にも努めている。

管理者および職員は、「利用者が、地域の中で家族との絆を大切にしながら、それぞれの思いを尊重した生活」となるケアを理念に掲げ、認知症を患っても、その人らしい安心した生活に向けて実践している。常に3つの心(感謝、謙虚、共感)を胸に、利用者の思いや心身の特性、習慣等に配慮しながらケアの改善に取り組む、家族との連携も密に行っており、信頼度の高さがアンケートの結果からも窺える。

管理者および職員は、気軽に何でも話せる良好な人間関係を構築しており、日頃のケアの中や全体会議、申し送り、ミーティング等で意見や要望を出し合って全員で協議し、また、個人的事情にも配慮しながら改善を図るなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を月一回の全体会議で唱和し、ホームの見えやすい所に掲示し、職員全員で「理念」の共有を行い、理念に沿ったケアの実践に努めている。	利用者が地域の中で家族との関りを継続しながら、その人らしい安心した生活が営める支援を理念に掲げ、玄関やトイレなど目につきやすい場所に掲示し、全体会議で唱和も行って周知している。申し送りやミーティング、全体会議等でケアの振り返りを行って意義の理解を深め、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が一時中止となる中でも、書面開催となっている運営推進会議議事録を地域メンバーに届ける等、途切れることなく関係が継続されている。	コロナ禍のため交流に制限もあり、これまで取り組んできた敬老会や夏祭り等への住民参加は控えている。また、地域のイベントの多くが中止となっている現状であるが、感染予防対策を徹底して通院や周辺の散歩時の会話や、状況により買い物に外出し農産物を頂いたり、また、老人会からは料理が届けられている。住民から寄せられる認知症相談に適切に助言するなど、可能な限り交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の幼稚園・保育園・学校・地域のボランティア、研修生・子供会・長寿会の訪問を受け入れている。ただし現在コロナ禍の為、感染予防対策として、外部からのボランティアの受け入れを自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の機会を捉え、自己評価・外部評価の結果や改善計画、入居者様の状況、きりっまの理念や日常の健康管理・防火安全対策について議題に取り上げ、その都度、意見に組みあげながら、サービスの向上につなげている。ただし、コロナ禍の為、感染予防対策として、市から指導があり、書面での対応になっている。	会議は、家族や民生委員、老人会、駐在所、消防署、市担当者等が参加して定期的に開催してきたが、コロナ禍に配慮して、現在は一堂に会することは控え、利用者の状況や活動の内容、防災対策、感染予防等の会議資料を各委員に届け、意見を貰うように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設当時より、霧島市介護保険担当局からの、指導、助言を受けている。不明な点はその都度連絡して対応方法の指導を受けている。市主催の勉強会にも毎年参加していましたが、今年はネット研修や資料をもらって職員ミーティングで役立っている。	市の担当者には介護保険の更新や各種制度に関する協議、感染症予防策の相談、生活保護受給中の利用者の処遇に関する連携等を行い、助言、指導、提案等を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。市主催のリモートによる研修にも参加して、運営やサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない「身体拘束廃止宣言」を掲げるとともに、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に一回（必要時開催）行い徘徊や、おむつ外し、排泄の改善などの対策を職員間で話し合い実践している	身体拘束については運営規定や利用契約書、重要事項に明記し、全体会議等で研修を行って理解を深め、拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束の適正化を目的とした身体拘束廃止委員会も年4回開催して認識を共有し、「身体拘束廃止宣言」も掲げている。現在、身体拘束適正化のためのホームの指針の整備を検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一つ一つのケアや言葉掛けなど小さな点から虐待に結びつかないように注意している。常に利用者様の人権を尊重する考えを忘れず、周りとも連携し、間違いのないケアを行えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援については、プラン作成により検討し、職員はプランに沿って支援している。成年後見制度については、職員が理解できるように勉強会を行い資料回覧を行っている。家族には契約時及び必要時に概要の説明等の情報提供を行い手続きの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の契約や解約の際、十分に話し合いをしている。その際、不安や疑問点を傾聴した上で理解し、納得をして頂けるように説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との日常会話を通じて苦情や意見をくみとるように努めている。コロナ禍で家族等の面会は自粛してもらっているが、毎月職員からの近況報告やお便りなどで利用者様の様子を知らせて安心してもらえるようにしている。玄関に意見箱も設置している。	日頃から寄り添いや見守りに努めて利用者の思いを会話や仕草から汲み取り、また、家族からの意見、要望は、面会や電話、意見箱等で把握に努めている。家族会や家族との会食等はコロナ禍に配慮して現在は中止しているが、写真を添付した毎月の近況報告やお便り等で利用者の状況を伝え、意見等を貰うように努めケアの改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会・ミーティングには必ず管理者が出席し、その際に積極的な意見交換を行っている。また、常日ごろから職員が意見を出しやすい職場環境作りを心掛けており、運営に反映させている。	管理者及び職員は、信頼関係のある良好な人間関係を構築しており、日頃の業務の中や全体会議、ミーティング等で、意見や要望等を出し合って改善を図っている。勤務シフトには有給休暇の取得や個人的な事情にも配慮し、業務に関する助言や指導、研修に努める等働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。給与や退職金等の体制が整備され、資格取得や外部研修受講時の経費についても法人による助成制度があり、モチベーションアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の都合をできるだけ反映させ、勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいに繋げるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員自らが自己評価や事業所内での勉強会の機会を多く持つようにして、職業意識を高め、さらに広い視野で介護を捉えるように取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>利用者様に対する介護サービスの質の向上を図るため、他施設への訪問研修などの取り組みを計画しているが、コロナ禍で行えていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に、管理者・ケアマネが家族やご本人様と面会をし、担当ケアマネから情報をもって参考にしながら、ご家族の気持ちや要望、ご本人様の気持ちや状態を導き出し、職員に申し送って対応に参考にしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人様とご家族の意向をしっかり把握し、安心してサービスをうけられる事ができるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所された入居者様一人ひとりに合った支援・サービスをケアマネージャがケアプランに反映し、職員がそれに基づいて実践するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>残存能力に応じ、洗濯物の整理や食事の準備、後始末など日常の家事や他菜園の世話、収穫等も職員と一緒にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に、電話やお便り等で利用者様・ご本人様の日頃の様子が常に届くよう、情報を入れており、良好な信頼関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊はご本人様の体調に問題なければ自由に行ってもらっているが、コロナ禍の為感染対策で不要不急の面会は控えて頂いている。	各利用者の馴染みの情報や思いを共有しており、感染予防策を徹底して家族との短時間の面会をホールで再開し、通院時のドライブで墓参や自宅周辺を見に行き、また、利用者の状況により買い物等を支援している。写真を添付した毎月のお便りで利用者の状況を伝え、電話、手紙の取り次ぎにも努めて関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにおいて、食事・茶話会で全員が顔を揃えていただくようにしている。気軽に会話やテレビを観たり、音楽を聴いたり、唄ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に御家族の要望で時々施設に訪れたい要望があったり、入院のための退所は、入院先を訪問したり、お便りを出す等して御家族の相談にのったり、アドバイスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、基本情報から利用者様の生活歴を把握しているほか、日々の暮らしの中から利用者様の表情やしぐさを観察し、気づいた点を定期的な話し合いの中全職員で共有している。利用者様一人ひとりに担当職員を決め、きめ細かな支援ができるように努めている。	利用開始時の情報や、日々の会話や表情、仕草等から利用者の思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら利用者主体のケアに取り組んでいる。認知症を患ってもその人らしい生きがいのある生活となるように、趣味（読書やぬり絵、お手玉他）や食材の下処理やお盆拭きなどの家事の取り組みも、利用者の意向や残存能力等に配慮して個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集や日々の暮らしの中での様子やサービス状況等、経過シートを用い情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。現状の把握に努めているようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は入居時や入居後のアセスメント及び利用者様や御家族との日頃の関わりの中で把握したい思いや意向を基に作成しておく。毎月カンファレンスやモニタリングを実施し、定期的に介護計画を見直すとともに、心身の状態に変化が生じた場合はその都度検討し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示やカンファレンス、モニタリング時の職員の意見を基に、心身の残存能力や習慣、楽しみ事等にも配慮した介護計画を作成している。利用者の状況変化時には実態に沿った計画に変更し、利用者や家族の理解も得て改善に取り組んでおり、実施状況は申し送りや施設介護経過等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や状態、気づきを個人記録に記入し、特に気になる事は申し送りノートを活用し、情報を共有している。また、利用者様の小さな情報を記録する「気づきノート」を活用し、職員が気づいた何気ない情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、御家族の思い、希望に配慮し、個々に合わせ、その時の状況に合わせたケアを実践している。又、ドライブ・買い物等にも出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議開催などによる情報の共有。地域の敬老会などのイベントの参加。コロナウィルス対策により活動は自粛している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所の医療体制を十分説明して納得の上、ほとんどの利用者様は協力医に変更して月1回の訪問診療を受けている。他科の通院は家族送迎を基本にしているが、家族の都合がつかないときには、事業所で対応することもある。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、現在、3医療機関を主治医としている。定期的な通院や訪問診療が実施され、他科受診は家族と協力して適切な医療を受けている。協力医療機関とは常に連携を図り、また、日頃から衛生や健康管理の徹底に努め、健康状態は家族と密に連携して状況を共有しており、利用者及び家族の安心や信頼に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、状態の変化等の場合は、相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。連絡を取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報・サマリーを円滑に行っている。連携室と密に連絡をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に御本人様、御家族の希望を聴き、ホームの対応方針や事業所で対応し得る支援について説明し、利用者様の状況に応じて段階的な話し合いを行って情報や方針を共有しながら支援している。	入所時に、利用者及び家族に対し重度化や看取りのホームの対応について説明を行い理解を得ている。利用者の状態の変化に応じて主治医より説明があり、その都度、家族と話し合いを実施して意向に沿ってホームで可能なケアに取り組んでいる。過去には看取りも実施しているが、現在は終末期には医療機関への入院が殆どである。重度化や看取りの指針を整備中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時はすぐに主治医に連絡し、指示を受けている。夜間時も主治医の指示のもと夜勤者が初期対応を行い、緊急搬送は手順通りに対応できるように掲示。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回の防災訓練を行い、消火器・消火栓の使い方の訓練も行っている。運営推進会議でもテーマに取り上げている。災害時の連絡先や自主防災組織図をホーム内に示し取り組んでいる</p>	<p>災害対策については年2回、火災、風水害の防災訓練を夜間発生も想定して実施し、通報や消火器、消火栓等の取り扱いの研修も実施している。従来、訓練には家族や近隣住民の参加も得ていたが、コロナ禍に配慮して本年度は利用者と職員とで実施している。防災については運営推進会議でも協議し、日頃から避難経路等の確認や災害の報道を基に意見を交わすなど認識の共有に努めている。自動火災報知機やスプリンクラーが設置され、懐中電灯、卓上コンロ、ラジオ、3日分の食糧品、飲料水、介護用品等も備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人情報保護についての勉強会を開催している。居室に入る時には、ノックしたり、排泄の声掛けやトイレ内にも必要以外には、むやみに入らないなど、人としての尊厳を保ちながら、親しみを感じていただけるように、努めている。	日頃のケアに際し、利用者の尊厳や人格を損ねるような言動を行わないように、プライバシーの確保や個人情報の保護の研修を実施して認識を共有している。排泄や入浴、衣服の着脱時のケア時には特に言葉遣いやトーンに配慮し、居室への入室時はノックするなど、礼節を重んじたケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表出しやすいように、職員から話題提供を図ったり、選択方式で自己決定を促すなど、ケアの中でさりげなく働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体制や気持ちを配慮し誘導している。「決して無理強いしない」が原則となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みに応じて衣服を着て頂いたり、化粧の習慣がある方は、継続して楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食では中々食事が進まない方には、ムース食やミキサー食に形態を変えお一人お一人の状態にあった食事を提供している。主食を好みに応じて米飯とパン食に選べるようにしている。	利用者の身体機能や嗜好、形態（刻み・トロミ等）、季節感、盛り付け等に配慮し、地域の方から頂いた野菜も活用しており、利用者も食材の下処理やお盆拭き等を楽しみながら一緒に行っている。季節の行事食や誕生日の希望食、手作りのおやつ、テイクアウトの弁当、年越しのそば打ち、ラッキョウ漬け、東屋でのお茶等、食事が楽しみとなるように日々工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアプランシートを参照に状況を把握し適切な量の確保に努めている。各利用者様の好みを把握し、確実に摂取できるように、個別の計画をたてる。必要な場合には、主治医に協議し、代替え食の提供を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防を行い、義歯の方は、洗い残しがないかの確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り、おむつは使わない方針で対応している。尿意・便意のない方も排泄パターンをつかみ、日中はパンツとパッドにする等可能な限り自立に向けて個別支援をしている。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態や排泄パターンに応じた支援に取り組んでいる。昼間は誘導等で可能な限りトイレでの排泄を支援し、夜間は鈴で尿意を知らせたり、ポータブルトイレを使用する利用者（3人）もいる。介護用品やケアの方法をプランに反映させており、オムツからリハビリパンツへの改善も見られている。便秘の予防に食事や水分の摂取、軽体操に配慮し、主治医の指示も受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を確認し、水分補給や食事量・服薬等の調整を主治医の指示の元、調整を行っている。運動も本人様に話をしながら、継続できるように誘導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、個別に行い、一人ひとりの意向に沿って、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。拒む人に対しては、言葉かけなどを工夫をして、入浴支援をしている。又、季節に応じてゆず湯などが楽しめるように支援をしている。	基本週3回の入浴を支援しているが、必要に応じ、その都度シャワー浴で保清している。順番や温度、時間、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、入浴剤やゆず湯も取り入れるなど工夫してゆっくり楽しんでもらい、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には、時間や声かけ等を工夫し、利用者の意欲を汲み取って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は御本人の様子や気分に合わせて、休息ができるように配慮している。夜間は無理強いな就寝にならないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品内容については、個々の職員が利用者様担当職員を中心に把握するように努力している。服薬チェック表を元にきちんと確認し、何か変わったことがあればすぐに、主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一つ一つの生活支援の機会を大切にしている。また、特技に応じて役割を持って頂き、「共に行う事」と「感謝と認め合い」を大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でどこでも行けるわけではありませんが、人がいない所を目指してドライブしたり、猛暑を避けて、東屋や玄関先でリフレッシュをしています。戸外へ出る事は減りましたが、季節にちなんだ張り紙や、テイクアウト、おすそわけのお菓子等で目や舌を通して季節の風情を愉しんでいます。	コロナ禍の為、制限はあるものの、感染予防対策を徹底したうえで、利用者の状況に応じて買い物や神社や周辺の散歩、ドライブにより車窓から季節の花や紅葉、馴染みの街並み、自宅周辺を眺めるなどを楽しんでいる。地域のイベントの殆どが中止され、ホームの行事も十分には実施できない状況であるが、東屋でお茶を飲みながら歓談し、プレイルームで軽体操やゲーム、カラオケ等を楽しむなど、工夫してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりにおいて小口現金を預かり、管理しています。外出して買い物という事が現状は難しい為、コロナ禍が落ち着いたら、買い物支援に行く予定です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話については、もともと適宣希望があれば対応していましたが、コロナ禍で特に他県の家族が面会できない状況もあり、以前より増えている。御家族からのお手紙も届き、利用者様も喜ばれている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月作る利用者様の方の作品や塗り絵、室内に季節の花などを飾って、家庭的な雰囲気を作っている。七草や十五夜に伴う草花や日常的に玄関やロビーに季節の活け花、観葉植物・御家族に了解を得た上で行事や日々の写真を掲示している。心地良い生活環境には特に力を注いでいる。音などの刺激を防止するなど必要に応じて、工夫を凝らしながら支援している。	利用者が昼間の殆どを過ごすプレイルームやホールは余裕あるスペースが確保されて明るく、動線や利便性に配慮してテーブルやソファ、テレビ等が設置されている。随所に活花や季節感のある貼り絵、利用者の作品、写真等が飾られ、台所からは調理の音や臭いが伝わって家庭的な雰囲気である。窓から周辺の山や川、日豊本線を走る電車が眺められ、空調や清掃、整理整頓を徹底し手指消毒薬等も設置されており、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に好きな事ができるように職員も注意し、一人で過ごせるスペースを確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>御本人と御家族の方と相談し、不安や混乱がないように、利用者様の好みや馴染みの物（写真や使い慣れた物）を用意し、御本人様が居心地の良い場所としている。御家族と御本人様には、部屋は自由に使用して下さるよう伝えている。</p>	<p>居室はフローリングに掃出し窓の余裕あるスペースの構造で、ウッドデッキも設置されて明るく、エアコン、ベッド、空気清浄機が利用者の身体機能等に配慮して設置してある。利用者が自室を迷うことが無いように、各居室の入口には記名や貼り絵など状態に合わせて表示しており、利用者は自宅で愛用していた寝具、家族写真、ラジオ、洗濯物干し等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた飾り物等も配置して、その人らしい居心地良く過ごせる環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の都合をできるだけ反映させ、勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいに繋げるように配慮している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない